

JACLaP WIRE No.92(2006年3月22日発行)

\*\*\*\*\*

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.92 です。

\*\*\*\*\*

===== 目次 =====

【事務局からお知らせ】会員動向(2006年2月27日現在数 688名、専門医 505名)

【ミャンマーの医療の現状】

【WHO トピックス】トリパノソーマ症の早期診断のための新しい診断法にゲーツ財団が開発資金を提供 <Press February 2006 WHO-194>

【M.A.N(Medical Academy News)】

MAN2月21日号

-----

===== JACLaP WIRE =====

【事務局からのお知らせ】

会員動向(2006年2月27日現在数 688名、専門医 505名)

【新入会員】

荒川 敦 先生 : 順天堂大学医学部第1病理学教室

小原一葉 先生 : 防衛医科大学校検査部

【所属・その他変更】

馬場俊暁 先生 : 旧 行田総合病院

新 久米川病院内科

向島 達 先生 : 旧 東海大学開発工学部

: 新 豊寿園温泉医院

【教育セミナー・GLM教育セミナーのお知らせ】

本年度の教育セミナー申し込みは2月17日に締め切りました。

今年も多数の先生方からの申し込みがあり、開催施設での準備が進められています。

参加される先生方には開催施設から集合場所、時間、準備するものなどの通知がありますのでお待ち下さい。

【第16回春季大会のお知らせ】

群馬大学医学部の村上正巳教授のお世話で以下のようなスケジュールで開催されます。

多数の会員のご参集をお願いいたします。

会 期 : 平成18年4月21日(金)~22日(土)

会 場 : ホテルメトロポリタン高崎

大会長 : 村上正巳(群馬大学大学院医学系研究科 病態検査医学)

メインテーマ : 臨床検査医学の進歩と検査医の将来

平成18年4月21日(金)

18:00~19:00 特別講演

司会 村上正巳(群馬大学大学院医学系研究科 病態検査医学)

演者 勝山 努(信州大学医学部附属病院 病院長)

19:00~20:00 懇親会 ホテルメトロポリタン高崎

平成18年4月22日(土)

8:30~9:30 未来ビジョン委員会

9:30~11:40 シンポジウム 『臨床検査医学の進歩』

1. 「最近問題となっている薬剤耐性菌感染症とその対策」  
一山 智（京都大学大学院医学研究科 臨床病態検査学）
2. 「臨床検査における遺伝子解析の意義」  
保嶋 実（弘前大学大学院医学系研究科 液性病態学）
3. 「生理活性脂質と臨床検査」  
矢富 裕（東京大学大学院医学系研究科 臨床病態検査医学）
4. 「遺伝子多型検査は医療に貢献するか？」  
村田 満（慶應義塾大学医学部中央臨床検査部）
5. 「子宮頸部癌における Human papillomavirus の役割」  
石 和久（順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 臨床病理科）

11:40~12:30 平成18年第二回全国・第三回常任幹事会

11:40~12:30 ランチョンセミナー

『電子カルテを導入してよかったこと悪かったこと』

検査部の目から見たよりよい活用法を目指して

演者 木村 聡（昭和大学横浜市北部病院 臨床検査科）

12:35~12:55 第27回総会

13:00~15:30 パネルディスカッション

『検査専門医の現状と将来』

1. 「研修医教育について」  
北村 聖（東京大学医学教育国際協力研究センター）
  2. 「臨床検査専門医と同等の力をもつ臨床検査技師（臨床検査科学者）  
育成の重要性」  
岩谷良則（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 生体情報科学）
  3. 「横断的診療支援の重要性と検査専門医の役割」  
諏訪部章（岩手医科大学医学部 臨床検査医学）
  4. 「遺伝医療における検査部の役割」  
野村文夫（千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学）
  5. 「日本の臨床病理医の現状と将来」  
玉井誠一（防衛医科大学校病院検査部）
- 15:30~15:35 次期大会長挨拶 伊藤喜久（旭川医科大学 臨床検査医学）

#### 【平成18年度第一回総会のお知らせ】

平成18年度第一回総会が第16回日本臨床検査専門医会春季大会会場で開催されます。  
ご参加をお願いいたします。

開催日時：平成18年4月22日（土曜日）、12時35分~12時55分

会場：ホテルメトロポリタン高崎

議題

1. 本年度活動内容報告
2. 平成17年度決算報告
3. その他

総会の案内と出欠の通知を往復ハガキでお送りします。総会を欠席される場合は、委任状の返送をお願いいたします。

#### 【今年度会費振り込みのお願い】

今年度会費の振り込みをお願いいたします。

会費の振り込み用紙には、すでに先生のお名前が記入されていますので、所属、住所、E-mail address の変更がありましたら通信欄に記入をお願い致します。

===== JACLaP WIRE =====

【ミャンマーの医療の現状】

国際医療技術交流財団(JIMTEF 団長 小西恵一郎常務理事)の2005年度調査団の一員として2006年2月12日~2月17日までミャンマーに出張する機会があったので報告する。その間、JICAのミャンマー事務所、ミャンマー日本国大使館、AMDAトレーニングセンター、ミャンマー保健省、東ヤンゴン総合病院、ヤンゴン伝統医療病院、マンダレー医科大学、マンダレー総合病院などを訪問した。目的はミャンマーにおける臨床検査技術領域、診療放射線技術領域、伝統医療の実態と、研修ニーズについて調査してきた。医療の人材育成は、保健省が担当しているが、医療技術スタッフが非常に不足している。また、軍事政権に対し、各国が援助を停止している状態で、日本との関係も疎遠になり、27億円あったODAの援助費が15億円に減っている。保健衛生上の課題は、マラリア、HIV/AIDS、結核、デング出血熱、ハンセン病、麻疹などの感染症の発症率がミャンマーは東南アジアのなかでも極めて高く、医療サービスの向上が望まれている。JICAの活動も人道的限定されている。ミャンマーは東南アジアのなかでも、経済的に苦しい状況(1人当りGDP 180ドル2003年)にある。

東ヤンゴン総合病院(200床の病院で、入院患者1日160~200人、外来患者1日150~170人)を例にとって説明すると、診療科は9科である。病理検査部には、病理医(Dr. Klin Shwe Mar)1名の下に、臨床検査技師7名いる小さな検査室の中である。化学検査室には機器は殆んどなく、大半の検査は用手法で行われていた。東ヤンゴン総合病院における2006年1月の検査数は、喀痰中の結核菌染色49件、グラム染色66件、尿培養13件、喀痰培養15件、感受性検査33件、臨床化学43件、HIV142件、HBs抗原121件、VDRL12件、ABO式輸血465件などと非常に少ない。今後、ミャンマーの保健医療が改善されることを期待している。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【WHO トピックス】トリパノソーマ症の早期診断のための新しい診断法にゲーツ財団が開発資金を提供 <Press February 2006 WHO-194>

ゲーツ財団(正式にはBill & Melinda財団)はアフリカトリパノソーマ症の診断を改善するためにWHOと共同で新しい診断法を開発するための資金を寄付すると発表した。トリパノソーマ症は、サハラ砂漠以南のアフリカ諸国に見られる病気で、ツェツェバエによって伝播し、治療を行わなければ100%死亡する病気である。発病初期の兆候としては、発熱、関節痛、皮膚のかゆみなどがみられ、その後、原虫が脳に侵入すると、幻覚、異常行動をおこし、進行すると昏睡となり死亡する。トリパノソーマ症は、アフリカ36カ国で流行している。現在、70,000人が感染していると推測される。ゲーツ財団は、トリパノソーマ症の早期診断のための、簡単、正確、安価な検査試薬を開発することが、この病気を治療し撲滅するために必要と考え、本症の診断のための開発資金を提供することになった。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【薬事日報社提供：M.A.N(Medical Academy News)】

MAN2月21日号

国内の標準化が大きく進展

## JCCLS が検査データの共有化で日臨技に協力を要請

日本臨床衛生検査技師会（会長小崎繁昭氏）は、（JCCLS）標準化事業に主体的に取り組む。国内のデータ共有化事業促進には職能団体である日臨技の組織力が不可欠となるため、5日に開かれた日本臨床衛生検査技師会・臨床検査データ共有化部会で、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）標準化基本検討委員会の濱崎直孝委員長（九州大学教授）と同検討委員会柱2委員長である高木康氏（昭和大学教授）が、日臨技が進めるデータ共有化事業にJCCLSの標準物質や標準法を採用してもらい、協調体制をとるよう求めた。要請を受け、小崎会長は来年度中にも各都道府県技師会長に協力を求めるなど、データ共有化事業に本格的に取り組む考えを示した。

会議の冒頭、あいさつした小崎会長は、「われわれの責務である臨床検査データの品質を担保する上で、精度管理とデータの共有化は二本柱だが、標準化は一つの組織が独善的に行うものではない。JCCLSと協調体制をとることで、より良いデータ共有化への道が模索できればと思う」と述べ、職能団体として主体的に検査データの共有化にかかわることの重要性を示した。

## 外来迅速検査・輸血管管理料など新設 中央社会保険医療協議会が診療報酬改定を答申

中央社会保険医療協議会（会長：土田武史早稲田大学商学部教授）は15日、2006年度の診療報酬改定案を川崎二郎厚生労働大臣に答申した。

臨床検査領域では、外来迅速検体検査加算（1点）が新設された。外来患者に対して、初診または再診時に検体検査を行い、同日中に当該検体検査の結果に基づく診療が行われた場合について算定できる。医療機関の受診回数を減らすなどのメリットがあるため。

検体検査1項目ごとに5項目を限度として算定し、算定に当たっては検査結果を患者に書面で交付する。また、[1]尿中一般物質定性半定量検査、[2]尿沈渣顕微鏡検査、[3]赤血球沈降速度測定、[4]血液ガス分析、[5]先天性代謝異常症検査 については、保険医療機関内で検査を行うことが算定要件とされているため加算の対象にならない。

さらに、安全かつ適正な輸血療法を推進するため、輸血管管理料Ⅰ（200点）およびⅡ（70点）が新設された。輸血管管理料Ⅰは、[1]輸血部門において専任の医師および専従の臨床検査技師を配置している、[2]輸血部門において輸血用血液製剤およびアルブミン製剤の一元管理がなされている、[3]臨床検査技師が当直し、24時間の輸血用血液検査の実施体制が構築されている、[4]血液製剤の使用が適正に実施されている などが算定要件となっている。

輸血管管理料Ⅱの算定要件では、[1]輸血部門において責任医師および専任の臨床検査技師が配置されている、[2]輸血部門において輸血用血液製剤の一元管理がなされている、[3]24時間の輸血用血液検査の実施体制が構築されている などが挙げられている。

## 西アフリカ諸国の臨床検査普及を支援 近畿臨床検査技師会が研修生受け入れでJICA、JIMTEFと基本合意

昨秋から話し合いを進めているフランス語圏の西アフリカ諸国の検査技師の研修生受け入れについて、国際協力機構（JICA）、国際医療技術交流財団（JIMTEF）、近畿臨床検査技師会、西アフリカ6カ国から来日した行政および臨床検査関係者ら11名と各国の医療情勢などの聞き取り調査の会議を重ね、5日JICA大阪センターで開かれ

た会議で受け入れに関する基本的合意に達した。研修生 12 名を今年 8 月下旬から 3 ヶ月  
間受け入れ、大阪大学保健学科や近畿の医療施設で感染症や微生物検査の基本的技術  
をマスターさせ、西アフリカ諸国の臨床検査普及を支援する。

=====

JACLaP WIRE, No.92 (2006 年 3 月 22 日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [ 情報・出版委員会 ]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

TEL:045-787-2721・FAX:045-786-0392

本 WIRE の記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先

uys-com@umin.ac.jp

日本臨床検査専門医会事務局(入会・退会)に関するお問い合わせ先

senmon-i@jaclp.org

日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名, 2. 現行登録アドレスと 3. 変更希望メールアドレスを添えて

uys-com@umin.ac.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

\*\*\*\*\*